

戦前京都在住朝鮮人の社会事業活動

——向上館保育園・産院と朝鮮人留学生——

はじめに

- ・在日朝鮮人にとって社会事業、福祉活動が重要なのはなぜか
- ・在日朝鮮人の歴史においてユニークな活動 向上館
- ・向上館を支えた人々の存在
 - 日本人クリスチャン
 - 京都在住朝鮮人
 - 朝鮮人留学生との関係

1 1930年代京都在住朝鮮人の状況

(1) 在住朝鮮人の増加

- ・京都市域の拡大
- ・都市インフラ整備のための労働力
- ・伝統産業（西陣織、友禅染など）の

(2) 女性、子どもの増加

| | 年 | 合計 | 男 | 女 | 男女比 | 14歳以下人口 | 比率 |
|-----|------|-----------|---------|---------|---------|---------|-------|
| 全国 | 1920 | 40,755 | 36,043 | 4,712 | 8.1 : 1 | 3,479 | 8.5% |
| | 1930 | 419,009 | 297,501 | 121,508 | 2.4 : 1 | 94,531 | 22.6% |
| | 1940 | 1,241,178 | 744,203 | 496,975 | 1.5 : 1 | 468,383 | 37.7% |
| 京都府 | 1920 | 1,068 | 823 | 245 | 3.6 : 1 | 121 | 11.3% |
| | 1930 | 27,785 | 20,112 | 7,673 | 2.6 : 1 | 6,036 | 21.7% |
| | 1940 | 67,698 | 39,749 | 27,949 | 1.4 : 1 | ? | ? |

(資料) 各年度国勢調査報告。1940年の京都府は内務省警保局『社会運動の状況』昭和15年度

(注) 1935年京都市在住者のうち15歳以下の人口比率は29.9%、日本「内地」生れが62.9%

(京都市社会課「市内在住朝鮮出身者に関する調査」集成3巻1179-80ページ)

その理由・朝鮮における農業恐慌のため一家をあげて日本に渡来(京都市社会課調査報告)

- ・渡航制限のため男子労働者の渡来が減少、家族呼寄せにより女性と子どもが増加

(3) さまざまな生活問題

- ・住居、教育文化、保健医療
- ・特に子どもの未就学問題

朝鮮人学齢児童(7~17歳)の小学校就学状況 総数4,756人

卒業者255人(5.4%)、就学中2,262人(47.6%)、中途退学128人(2.6%)、
不就学2,105人(44.3%)、不明6人(0.1%)

男子の不就学者713人(28.4%)、女子の不就学者1,392人62.2%

全市学齢児童の昭和9年度不就学率は1.13% (京都市社会課調査報告)

- ・不就学の理由を社会課調査報告は貧困と親の無教育に求めているが、もう1つの理由は日本学校が朝鮮人児童を受け入れなかったこと

2 向上館設立以前

(1) 高光模 略歴 p.4

(2) 京都朝鮮中央幼稚園

1934年11月 左京区田中に「京都朝鮮中央幼稚園（保育園）」を開設

在京都朝鮮基督教田中伝道所の建物を借りる

1935年3月 幼稚園後援会組織（朝鮮人親睦会の鄭泰重ら）

朝鮮人自動車運転手親睦会が西陣方面の園児を自動車で送迎（朝鮮中央日報
1935年5月26日）

1935年9月 下京区中堂寺北町に移転

専用自動車を購入、園児男児19人、女児10人（民衆時報1935年11月15日）

* 京都の朝鮮人経営幼稚園

朝陽幼稚園 1935年12月 上賀茂朝鮮人肥料組合（組合長金宗洙）が中心になって開設

海東保育園 1936年頃 吉祥院衛生組合が設立

清心保育園 1936年頃 半島京友会（伏見？）が運営

3 向上館の設立と事業 別紙資料 pp.7 - 10

(1) 各種事業

「普通の住宅を3軒合せ改築し、半分の階上、階下は保育部と夜間学校に当て、半分は同館経営の医院に当てて階上は入院室、階下は診療室と薬局、患者待合室、応接間に使用されている。〔略〕現在同館の保育部には約50名の児童を収容し、夜間学校には男女130名の生徒を収容し、女子部が40名余りとあるといはれてゐる。この夜間学生は京都の各方面から通学をしてゐるが、中には三十四五歳の好学熱に燃ゆる晩学者も数人ゐるといふのである。」

（石井洵「京都向上館を訪ふ」『東亜新聞（関西版）』1941年9月9日）

「現在勤労青年、少女又は家庭婦人にして14才より47才に達する者まで合計1300余名の多数にのぼり、之を1年生より6年生までに分ち学級は8級に分れてをり、之があめ一家屋の階上、階下を使用しても収容し切れず超満員の盛況を呈し、向学の熱意に燃ゆる青少年男女はこの不便を忍びつつ学業に励んでゐる姿は痛ましいものがある。尚この向上館夜学部の教師は同館の職員の外立命館、高商の学生諸氏が相協力して奉仕にいそしんでゐる。」

（「半島少年教化に挺身活躍する京都向上館を覗く」『東亜新聞（関西版）』1941年9月30日）

(2) 文化活動

1936年6月27日 朱雀第三小学校で「半島同胞慰安の音楽と映画の夜」を開催
2500名（3000名とも）の観衆 児童・留学生が出演

4 向上館を支えた人々

(1) 向上館職員

保母 高光模の妹高業伊（京城保育園から京都に移る。のち産婆看護婦に）ら

産婆 金甲出ら、金桓云（同志社女専卒、高光模の妻）は京都産婆看護婦学校に通う

(2) 在住朝鮮人

朝鮮人親睦会 鄭泰重ら 略歴 p.4

自動車運転手親睦会 1934年式フォードを1200円で購入（民衆時報1936年2月21日）

京大の朝鮮人研究者 李泰圭、李升基、朴哲在、尹致旺（京大医学部研究生） 略歴 pp.5 - 6

「京都在留同窓消息

〔略〕京都在留中の会友関係者は、尹致旺、張元用両氏と筆者〔崔在裕〕合わせて3人で、尹致旺氏は産婦人科教室に在籍中で、研究は産婦人科領域内の組織培養に関するもののほか数種である。〔略〕両氏ともに温和な性格と円満な性格をもっているだけに教室内外を通じてひとからならぬ好評を得ている。特に尹致旺氏は在京朝鮮人児童幼稚園事業に非常な趣味をもって援助しておられる。」(『世富蘭僑校友会報』第25号、1936年、68ページ)

朝鮮人留学生 夜学の講師、診療所の医師などを務める 別紙資料 pp.11-12

(3) 朝鮮本国からの援助

尹致旺(セブランス医専教授)は、のちに向上館の財団法人化のために3500円を寄付

(4) 日本人クリスチャン

太田十三男 1939年高光模とともに朝鮮で募金活動 略歴 p.6

浜田光雄 朝鮮での募金活動 戦後も向上社保育園に関わる

佐伯理一郎(産婦人科医師、京都産婆看護婦学校長、クリスチャン) 向上館産院を支援

5 警察の圧迫・弾圧

(1) 圧迫の理由

(2) 向上館の対応

協和会役員を理事に入れる

太田十三男の役割 別紙資料 pp.7

大阪府産業報国会指定授産場を設置し、軍需工場寄宿舍の寝具類を洗濯

(3) 弾圧

1944年6月 高光模が警察に検挙、軍需工場の情報を米国人に伝えたとの容疑

91日後に釈放されたが、その間に夜学、産院、診療所は閉鎖を命じられた

6 戦後の向上館、向上社保育園

(1) 敗戦直後

向上館学院として朝鮮語教室、英語教室を開設

(2) 保育園

1947年 財団法人向上社認可

1950年 高光模が韓国へ、戦争のため日本に戻れず

1951年 大韓基督教京都教会が向上社を引き継ぎ、教会横で保育園を経営

織田檜次牧師が園長を20年間務める

(参考文献)

浅田朋子「1930年代における京都在住朝鮮人の生活状況と京都朝鮮幼稚園」『在日朝鮮人史研究』第30号、2000年

浅田朋子「京都向上館について」『在日朝鮮人史研究』第31号、2001年

『社会福祉法人向上社保育園 創立50周年記念誌』1984年

『皇紀2600年記念号 京都向上館事業概要』1940年、ほか